

資料4

意見交換②



令和3年度(2021年) 北海道Society5.0推進会議への報告事項



① 行政のオープンデータの推進

② 民間のデータ利活用の推進

③ その他の事項

① 行政のオープンデータの推進

課題（データを活用する側）

- データが探しづらい
- 自治体がどんなデータを保有しているかわからない
- PDFなど機械で読めない形がほとんど
- 市町村が個別に出すより、道でまとめた方が良い
- 行政と利用者のコミュニケーション不足

課題（自治体職員側）

- オープンが当たり前という意識は無い
- 現状ではデータ作成に手間が増える
- データは出来れば出したいくないという意識が根強い
- データを作成、活用できるスキルが無い

対応策

- 行政の所有するデータの棚卸し調査の実施
- 法律で義務化されていることの周知
- 民間ニーズを把握し、優先順位をつけてデータ作成
- 機械判読可能なデータによるメリットの周知
- 職員がデータを作れる知識をつける
- 職員がデータを利活用できるようにレベルアップ
- 継続的にデータ更新できる仕組みの構築



令和4年度に道の事業として予定（協議中）

- ・道庁のデータ棚卸し
- ・データ活用アカデミー
- ・アイデアソン・ハッカソン

② 民間のデータ利活用の推進

課題（民間データ公開）

民間のデータは資産。囲い込むのは当然。
インセンティブ（宣伝効果など）が無いと難しい
データをどうやって集めるか
公共性の高いデータは公開するべき

課題（民間データ利活用）

必要なデータが不足している
データを扱える専門人材不足
データを業務で扱うことを考えていない

対応策

データを公開することで宣伝になるような仕組み作り
メリットが得られるエコシステム、サイクルを作る
データを活用して課題解決する仕組みに民間も取り組むべき
一つの成功事例を作る活動を行っても良い
データの活用サンプル例を出して、導く仕組み作り
データを活用するためのセミナーの開催など
データ活用をアート系とつなげる

令和4年度もワーキンググループ
で継続的に検討

③ その他の事項

- 令和3年度北海道オープンデータアイデアソン、ハッカソンの報告
- 民間企業からヒアリング結果の報告

第3回WG終了後、12月～1月に実施予定

<ヒアリングの内容案>

- 機械判読可能な行政データは活用できるか？
- 活用したい行政データは？
- データ利活用の事例
- 民間データの公開の可能性 など

※メンバーの方々に、ヒアリングできる民間企業があれば紹介していただきたい。

※ヒアリング時には、メンバーにもお声がけします。